

平成25年 3月 26日

地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 生物資源学研究科
氏 名 木村 妙子

活動テーマ	地域の親子を対象とした科学講座《親子(孫)でたのしむ仮説実験講座》の企画と実施
実施期間	平成24年5月28日 ～ 平成25年 3月25日
活動内容	【活動実施内容】 5月18日から20日に北海道にてNPO 楽知ん研究所のメンバー15名と今年度企画について、内容打ち合わせと実験を行った。今年のテーマは『結晶の科学』とされた。5月から6月は企画メンバーとメーリングリスト上で企画の打ち合わせをし、学内で結晶作りの予備実験を行った。6月には東京で開催されたミネラルフェアにて、展示資料を購入した。7月は参加者の募集を行い、アシスタントの学生と企画の見直しと予備実験、持ち帰り用の実験セットの準備を行った。8月11日、12日の2日間午前と午後2時間を使い、生物資源学部校舎でイベントを開催した。イベント終了後から9月までは参加者の感想のとりまとめを行った。9月から11月には今回の企画を元にNPOメンバーと共同で初心者向けの結晶実験の本『はじめての結晶作り』の原稿を作成した。12月から現在までは来年度企画を選択、検討している。 【地域への貢献】 2007年以降、大人から子供まで毎年60～80名の(のべ335名)地元住民が講座に参加している。今年度はこれまでの最高人数の92人の参加を得た。例年同様、リピーター率も高かったが、一方で新規参加者もあり、着実に広がっている。来年度の開催希望も多い。講座終了後も実験結果の成果報告等のつながりがあり、科学の楽しさの定着が示された。 【共同実施者との連携状況】 NPOメンバーとは企画段階からメールや研究会等で密接なコミュニケーションをとり続け、企画を練った。展示資料の作成や予備実験は大学内で行ったものが多い。講座終了後は共同で初心者向けの結晶実験の本『はじめての結晶作り』の原稿を作成した。 【大学の教育・研究成果のかかわり】 本年は生物資源学部1年生2名、4年生2名、人文学部2年生2名、生物資源学研究院生4名の計10名が自主的にサポートを申し出、予備実験や実験セット作り、当日のアシスタントを行った。このうち7名は複数年のスタッフ経験がある。手伝いというだけでなく、プラン自体の基礎的な科学法則を学び、子供たちの学ぶ姿勢に反対に学ぶことが多いようである。また、自分が働くことで他人に喜んでいただく経験ができるこ

とも貴重であった。

【イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）】

イベント名称：親子（孫）で120%科学を楽しむ仮説実験講座～『君も結晶する？』

実施日：2012年8月11日，12日の2日間

実施場所：三重大学生物資源学部大講義室

参加人数：32組，大人46名，子供46名，合計92名

アンケート結果：この講座を受けて楽しかったかどうかを5段階評価していただいたところ，93%が最高値の「5．とても楽しかった」，7%が「4．楽しかった」とそれぞれ評価し，年齢層に関わらず極めて高い満足度が得られたことがわかった。

参加者の感想，画像など：添付書類1，添付書類2を参照。